

Title	日中両言語における後置要素の態度表出機能：人称代名詞の場合
Author(s)	汪, 聞君
Citation	間谷論集. 2018, 12, p. 151-163
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89851
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

< 研究論文 >

日中両言語における後置要素の態度表出機能 ——人称代名詞の場合——

汪 聞君

1. はじめに

周知の通り、日本語は SOV 型の膠着語であるのに対し、中国語は SVO 型の孤立語で、その文構造には大きな隔りがある。基本語順は異なるが、こと後置文となると、その構造は非常に似通ったものとなる。

以下、断りのない場合、例文は a が原文、b は筆者による訳文である。

(1) a. 太没节操了我。(『欲楽頌』第1期第1話)

b. なんて節操ないの、私。

(1) の語順は、各言語の基本語順に従えば以下ようになる。

(2) a. 我太没节操了。

b. 我、なんて節操ないの。

本稿では (1) のように、本来文末に位置しないはずの要素が、文末に出現しているものを、「後置文」と呼ぶ。

西村(2015, 2016) は語気助詞¹化という観点から中国語の後置文、特に後置成分が副詞及び人称代名詞の場合を分析したものである。本稿は西村(2015, 2016) の分析を参考に、後置成分を人称代名詞に絞った上で、日中両言語の話し言葉における後置文の対照を行う。西村(2015, 2016) の言う後置成分の語気助詞化は決して中国語特有の現象ではなく、多くの場合日本語でも同様であることを指摘する。

本稿では、日中両言語の話し言葉における後置文の対照を通して、①後置は話し手の態度を表すストラテジーの一種であること、②日本語の人称代名詞は中国語と同様、文末に置かれることで、もともと有していた指示機能が希薄化し、話し手の態度表出機能を獲得すること、の2点を明らかにする。

2. 先行研究

2-1. 日本語と中国語における後置文の概要

本節では、陳(1984)、藤井(1991)及び西村(2015, 2016)を参照し、日本語と中国語における後置文について概説する。

陳(1984)は中国語の話し言葉における追加現象²を、「補足追加型」「注釈追加型」「修正追加型」に、また、藤井(1991)も日本語の後置文を「付加文」「有標文」「修正文」に3分類している。

後置文に見られる現象について、中国語については、陳(1984)が既にその傾向を指摘していたが、日本語についても藤井(1991)が類似する点を指摘している。

中国語における「修正追加型」は「時間、年齢、数字など、記憶違いをしているものについて考えている間がないため、言い間違った時点ですぐ修正するもの」、「補足追加型」は「聞き取る順序が逆転したために、前置された部分が際立つことで、内容の中心、焦点となるもの」、「注釈追加型」は「前置部分の発話の後、ある重要な語句についてまだ具体性や明確性に欠けるため、後置成分を追加するもの」である。日本語の「修正文」では、「話し手が行なった誤った省略の修復の目的で語順の逆転が行なわれている」ものであり、「有標文」は、「脈絡の中で話し手が語用論的により重要と思う部分を先に発話してより目立たせようとする目的で行った発話行為が、結果として語順の逆転を起こしているものである」という。「付加文」は、「話し手が確認したい内容や強調の部分を再度表す目的で行なわれる」と述べている。

以上からわかるように、二者の考察には非常に近いものがあり、日中両言語の後置文には共通性があることが見て取れる。

しかしながら、これらの研究は、確かに後置文のより細かい分類を可能にした

が、後置文の本質を明らかにしたとは言えない。実際、(1)の後置要素“我”や「私」の例は、陳(1984)及び藤井(1991)による分類の「補足追加型」「注釈追加型」「修正追加型」や「付加文」「有標文」「修正文」のいずれにも当てはまらないため、説明することができない。

上記の陳(1984)及び藤井(1991)はあくまでも後置文を語用論の観点から分析したものである。一方、西村(2015, 2016)は、中国語の副詞や人称代名詞は、後置されることによって語気助詞化し、様々な態度を表すと指摘している (cf. 3-1節)。

2-2. 情報構造からみた後置文

高見(1997)及び楊(2001)は情報構造の観点から後置文を分析している。まず、高見(1997)は、「日本語の後置文は、後置要素に焦点以外の要素が現れる場合にのみ適格である」と主張している。

(3) a. やってきましたよ、例の青年が。

b. * やってきましたよ、ある青年が。(高見: 1997)

高見(1997)によると、「例の青年」は「例の」からもわかるように、旧情報であるため、(3a)は適格である。それに対して、(3b)の「ある青年」は不定表現であり、焦点として解釈されるため、不適格となる。すなわち、この観点に従えば、前置要素は必ず焦点であるということになる。

つづいて、楊(2001)は中国語において、前置部分は必ず焦点であるという考えに対して、「一般的な傾向は見られるが、必然性はない」と指摘している。下記の例を参照されたい。

(4) a. 走了, 可能。(楊: 2001)

b. 帰ったよ、たぶん。

後置要素“可能”や「たぶん」を取り除くと文意が大きく変わり、「(確実に)

帰った」という意味になってしまう。このことから、これらの後置要素は取り除くことのできない重要度の高い情報であり、日本語においても中国語においても、前置要素は必ずしも焦点ではないということが言える。

2-3. 指示に関する網羅的な研究

また、指示に関する網羅的な研究は日本語記述文法研究会(2009)による研究が挙げられる。日本語記述文法研究会(2009)によると、「指示は、談話に登場する対象を、聞き手や読み手に誤解のないように言語表現で指示していくことで、談話にまとまりを与える言語的な手段の1つ」である。しかし、(5)の「私」はコンテキストにおいて、上記の聞き手に誤解を与えないようにする機能が働いていると解釈するには無理があるように思える。

(5) 子どもの頃からね、かわいくてね、私。(『ひよっこ』第57話)

また、「2人称代名詞として一般的なのは『あなた』『君』であるが、その使用には制限がある。聞き手(読み手)を示す場合は省略されることが多い」とされている。しかし、この解釈でも、(6)のような例において問題が生じる。

(6) 何よ!! あんた!!

(読売オンライン 発言小町 <http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2009/0219/226063.htm> 2017年6月6日最終閲覧)

上の例の後置要素「あんた」は2人称代名詞であるにも拘らず、省略されていない。

それには何か理由があるのではないだろうか。次節では、その理由として、中国語との対照を通して、「あんた」が単なる二人称代名詞ではなく、「話し手の態度を表す要素」として機能しているのではないかということを提起したい。

3. 人称代名詞が後置される場合の態度表出機能

3-1. 中国語における後置要素の人称代名詞語気助詞化

西村(2015, 2016) は、陳(1984) を踏まえた上で、こうしたタイプの文が頻繁に用いられることによって、次第に固定化し、固定化と同時に「後置文」独特の機能が生まれたと指摘している。

(7) a. 干什吗呀你?!! (西村:2015)

b. 何をしているのあなた?!!

ここでは、(7) でも、後置要素の“你”(あなた)は、多くの疑問文で一般に見られる文末のイントネーションを伴ってはいるが、既に単純な疑問文ではなく、話し手の「意外」、「不満」などの態度を表出することに重きを置いた文となっていることに注目されたい。

会話においてはほかにも、以下のように、後置文を用いて話し手の態度を強く表現する例が多く見られる。

(8) a. (郑宝珠和她妈妈为尔志强去黑丽丽餐厅的事吵架)

妈妈：你听我跟你说话呀宝珠。凡是进黑丽丽餐厅的，他没几个好东西！

宝珠：妈你说话能不能斯文一点啊。在你眼里就一个好人也没有。

明天我不小心进去了，你骂我是妖精啊？

妈妈：你进去干什么，你疯了，疯了你！（下線部は原文ママ）

宝珠：我没准想喝酒呢我！（下線部は筆者による）（西村：2015）

b. (鄭宝珠が爾志强を探して黒麗麗レストランに行ったことについて、宝珠と母親が口論している)

母親：宝珠、よく聞きなさい。黒麗麗レストランに行く奴にロクなやつはいないのよ。

宝珠：もうちょっときれいな言い方できないの？お母さんから見たら、いい人なんてひとりもないのよ。もし明日私がレストランに行ったとし

たら、私のことも化け物呼ばわりするつもり？

母親：あんた行って何するつもりよ？頭おかしいんじゃないの！狂ってるわよ！

宝珠：お酒が飲みたくなったりしちゃうかもしれないだから！

母親が宝珠を叱っている“你疯了，疯了你！”を見ると、後半部“疯了你！”が話し手の態度を強く表わしていることが見て取れる。後置された人称代名詞“你”（あなた）は、特定の人を指しているというより、むしろ話し手の態度を表現していると考えべきである。また、西村(2015)は指摘していないが、“我没准想喝酒呢我！”の後半部“没准想喝酒呢我！”も同様に、宝珠自身のことを指すというより、自分の主張や態度を強く表しているのが読み取られやすいと思われる。文頭にはっきりと示されている主語の「我」（私）が、語気を強めるために文末でもう一度使用されていることは、その証左であろう。

(アパートに引っ越してきた鼻持ちならないセレブに毒を吐かれた挙句、チョコひとつでなだめられてしまった自分を情けなく思う。)

(9) a. 邱莹莹：完了，完了，正宗白富美，我现在对他羡慕嫉妒，就是没有恨，一盒巧克力就把我给收买了，太没节操了我。(再掲)

b. 邱莹莹：あもう終わりだわ。あの女、正真正銘のセレブよ。彼女のこと、確かに羨ましいし嫉妬もしてるけど、恨みの感情はなくなっちゃったわ。チョコひとつで取り込まれちゃうなんて、なんて節操ないの、私。

上の例は、人称代名詞“我”（私）の後置により、自分が情けないという話し手の態度が表れた文である。

(OL風の格好で通学してきたWさんを目にした友人が)

(10) a. 今天走的霸道总裁风，超哦你！

b. どこの大物かと思っただけ、いかしてるなおめえ。(個人談話)

上の発話において、Wさんが普段と違う雰囲気を出していることに対する友達の驚きが文末の“你”（おめえ）によって表されている。

3-2. 日本語において人称代名詞が後置される場合の態度表出機能

日本語における後置文については以下の例を見られたい。

(11) (鈴子さんが、就職面接での勝ち残りをかけた女同士の闘いについて話している)

鈴子：私、よく分かんないのよね。あの、女同士の闘いっていうのかしら、
 そういうのあんまりなくて。ハハハ！子どもの頃からね、かわいくて
ね、私。フフフ！町内の人気者だったのよ。この辺りの。

みね子：へえ…。(再掲)

上の例は、人称代名詞「私」の後置により、話し手が可愛く人気者であることについて、聞き手に共感してもらいたいという態度が表れた文である。また、「私」の後置がないと、「子供の頃からね、かわいくてね。」になってしまい、共感を求める度合いが低くなっているように感じられる。文頭に「私」が表出した「私、子供の頃からね、かわいくてね。」も同様で、主観的意味合いの弱い、単純な陳述文に映る。

(12) (みね子は思いもよらない人からお年玉を受け取った。)

愛子：じゃ、お姉ちゃんから…お年玉。

みね子：えっ！？そんなもらえるんですか？私。(『ひよっこ』第59話)

上の例は、人称代名詞「私」の後置により、話し手の意外に思う気持ちが表れた文である。

(13) (乳癌を患って、ホルモン調整の薬を飲み忘れて)

バカだなわたし。2、3日は振り出しに戻ってしまったみたいに強い目眩と吐き気だったよ。今は半分くらいに治まったけど。でも思わず薬を飲み忘れるほどの、あんなに怪い目眩までには戻っていない。バカだなわたし。ほんとバカだなわたし。

(<http://clichang.hatenablog.com/entry/2017/04/25/161442> 2017年6月18日最終閲覧)

上の文で、バカが指すのは「わたし」であることが文脈から明らかである。この文でなお「わたし」が用いられているのは、乳癌を患った上、薬を飲み忘れたことがバカだということに対して「自嘲」的態度を表したい意図があると考えられる。

(14) (スリに逃げられた警察官が)

警察官：そんなことばかりなんだよ、俺。嫌になっちゃう。(『ひよっこ』第44話)

上の例は、ついていない自分へのやるせない気持ちが表出した文となっている。

(11-14)の例から、次のことが主張できる。すなわち、一人称代名詞が後置された場合に、話し手の自慢、意外、自嘲、やるせなさなどの気持ちが読み取れるということである。

(15) (復讐のため殺人を犯した人に)

奈和：アハハハ、バカね、あなた。具同の嫡男を殺したのよ。あんたはもうおしまいよ。(『貴族探偵』第11話)

(13)では「わたし」の後置により「自嘲」の態度が読み取れたのに対して、上の例では「あなた」の後置により聞き手を嘲る態度が読み取れる。

(16) (みね子、時子、幸子を含む6人の女性が、海水浴に行くはずのない愛子を、とりあえず誘ってみる)

みね子：愛子さん、一緒に水着買って海水浴行きませんか？

時子：どうですか？

幸子：行きましょうよ。

愛子：うん、行く！

女性6人：え…？

愛子：冗談よ。なんて顔してんのよ、あんたたち！ (『ひよっこ』第43話)

例(16)は「そんな顔して、何かあったの？」という理由を尋ねる純粋な疑問文ではない。ここで「あんたたち」はすでに単なる指示機能を担う人称代名詞ではなく、話し手の態度を表す機能を獲得していると考えられる。

また、電子掲示板形式の投稿サイトでは次のような例が見られる。

(17) 近所のよく買い物に行くお店でのことである。キーキーうるさい2歳くらいの子どもの、足をつかまれたのでビックリした。でも母親は笑いながら「すみません」とふざけ気味に言う始末。母親のその態度が不快だったので「笑いながら謝るのやめてもらえませんか？」と冷静に言ったところ、母親からタイトル通りのこと（「はあ？ 何よ！！あんた！！」）を言われました。（再掲）

ここでも、「何よ！！あんた！！」は「あんた何よ」のように疑問を投げかけているのではなく、文末の「あんた」が母親の不満や怒りの態度を強く表す役割を果たしている。

(18) (出稼ぎ先の東京で、三男は養子に行くことを提案された)

みね子：ああ、それで、ほら、あれなんでないの、その旦那さん。後継ぎにしたいでねえの？婿養子として。

三男：はあ？冗談じゃねえよ、おめえ。 そのために東京来たわけじゃねえし

よ。大体、農家の三男坊から婿養子って、おめえ、どんな人生だ、俺は。日陰すぎだろ、いくら何でも。もっと日の当たる人生を歩みてえよ。(『ひよっこ』第54話)

上の発言では、文末の「おめえ」に三男がみね子の発言に強く憤る態度が表れている。

(19) 将太君：まあ見てよシンコ君！！

シンコ君：すりばちですった芝エビをダシを加えて炒り煮して…それはオボロ！？芝エビのオボロを作っているのか、将太君！？

将太君：すげえなお前！一つもあってないよ！

(<https://bokete.jp/boke/24655878> 2017年12月6日最終閲覧)

例(10)の“你”と同じく、上例の「お前」でも、シンコの回答が一つもあってないことに対する、将太の驚きが表されている。

(15-19)の例から、次のことが主張できる。つまり、文末の二人称代名詞は、聞き手への蔑みや、話者の予期に反する事象に起因する驚きなどの態度を表す傾向が強い。

4. まとめ

本稿では、中国語との対照を通して、日本語の人称代名詞が後置される場合の態度表出機能を考察した。一人称代名詞が後置された場合には、話し手の自慢、意外、自嘲、やるせなさなどの気持ちが読み取れ、文末の二人称代名詞は、聞き手への蔑みや、話者の予期に反する事象に起因する驚きなどの態度を表す傾向が強い。また、二人称代名詞に比べて、一人称代名詞の方が、後置時の態度表出機能のバリエーションが豊かであることが分かる。この点においても日中両言語の特徴は共通している。

一方、話しことばにおける後置文の分析には、後置以外の要因、例えば、文脈

や発音なども関わっている。したがって、その解釈は個人や場面によって多様である。後置以外の要因が上記のような態度表出機能に関わるメカニズムについては、今後の課題として検討したい。

藤原(1998)は、「どの言語にあっても、口ことば(話しことば)では、どのような文の表現も、一文の後方に行くほど、ものの、耳朶への残留率が高かろう。文はそれ自体、訴えの形式であるけれども、その訴え性は、文表現末部に色濃く極まる」と述べている。本稿で観察した日本語と中国語はこの藤原の観点を体現するものであり、ひいては同様に文末助詞を有する東南アジア諸語、及び言語一般における文末要素(sentence-final particle)の分析にも寄与しうる可能性を秘めている。

注

- 1 語気助詞：朱德熙(著)、杉村博文・木村英樹(編訳)(1995)『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』では、「語気詞」とされている。
- 2 追加現象：陳(1984)は「後置文」のことを「追加現象」と述べている。
- 3 中国語文献からの引用部の日本語は、全て筆者による翻訳である。

参考文献

- 陳建民(1984) <汉语口语里的追加現象>「中国語話し言葉における追加現象」《语法研究和探索》『文法の研究と探究』北京大学出版社 pp.117-132.
- 藤井洋子(1991)「日本語文における語順の逆転—談話語用論的視点からの分析—」『言語研究』第99号 pp.58-81.
- 藤原与一(1998)「日本語と文末詞」佐々木峻・藤原与一(編)『日本語文末詞の歴史的研究』三弥井書店 pp.303-315.
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法7 第12部：談話』くろしお出版
- 西村英希(2015) <現代汉语“复用”结构研究>「現代漢語『複用』構造の研究」神戸市外国語大学博士学位論文

- (2016) <副詞“复用”句初探—以副詞“都”为例>「現代中国語における副詞『複用』文の初歩的考察—副詞“都”を例として」齊瀨揚(編)《現代汉语虚詞研究与対外汉语教学(第6卷)》『現代中国語虚詞研究と対外中国語教育(第6卷)』上海訳文出版社 pp.134-148.
- 高見健一(1997)『機能的統語論』西光義弘(編)『日英語対照による 英語学演習シリーズ4』くろしお出版 pp.1-13.
- 楊徳峰(2001) <也论易位句的特点>「後置文の特徴」《语言教学与研究》『言語教育と研究』2001年5期 pp.10-16.

用例出典(テレビドラマ)

- フジテレビ『貴族探偵』2017年4月～7月放送
- フジテレビ『人は見た目が100パーセント』2017年4月～6月放送
- フジテレビ『コード・ブルー』第3期 2017年7月～9月放送
- NHK 連続テレビ小説『ひよっこ』2017年4月～9月放送
- 日本テレビ『ボク、運命の人です。』2017年4月～6月放送
- 浙江衛視『歡樂頌』第1期 2017年4月～5月放送

付記

本稿は、日中対照言語学会第38 ■大会における口頭発表「人称代名詞が後置される場合の態度表出機能—中 ■語との対照を通して—」に大幅な修正・加筆を施したものである。

<キーワード> 統語論、日中対照言語学、後置文、人称代名詞

The emotive function of sentence-final particle in Japanese and Chinese: the situation of personal pronouns

WANG Wenjun

By using the study of Nishimura (2015, 2016) as a reference, this paper focuses on the situation that the sentence-final particle is personal pronouns, in order to compare the postposing constructions in spoken Japanese and Chinese. This paper will point out that modalization is not only typical of Chinese, but is also possible in Japanese in many cases.

By comparing the postposing constructions in spoken Japanese and Chinese, this paper intends to prove the following two points: 1. Postposing is a strategy of expressing the speakers' emotion; 2. The personal pronouns in Japanese is the same with that in Chinese. Though put at the end of the sentence, its reference function will be weakened, and thus gain the emotive function.